



パネル展
よみがえれ長良川2024



長良川の環境考える

メディコスでパネル展

パネル展会場で村上康成さんデザインのステッカーを選ぶ来場者＝岐阜市司町、みんなの森ぎふメディアコスモス



長良川河口堰^{せせ}（三重県桑名市）の開門調査の実現を目指した市民団体のパネル展「よみがえれ長良川2024」が29日、岐阜市司町のみんなの森ぎふメディアコスモスで始まった。事業費が2・5倍になった木曽川水系連絡導水路事業やニジマス流出などを約40枚のパネルで問題提起している。7月1日まで。

岐阜市の長良川市民学習会など約30団体で構成する「よみがえれ長良川実行委員会」の主催。

事業費だけでなく工事内容や放水箇所が変更された導水路事業の問題点を指

摘。2022年に常時開門を始めた韓国のナクトンガン河口堰も紹介している。

愛知県一宮市の写真家磯貝政司さんが源流から河口までを追った写真22枚を展示するほか、県出身のイラストレーター村上康成さんのステッカーがもらえるクイズもある。同実行委員会の武藤仁さんは、「世代を超えて長良川を考えるきっかけにして」と期待する。

30日午後1時から、三重県鈴鹿市の漁師の家で育ったイラストレーター矢田勝美さんが「このよでいちばんおいしいさかな」と題して講演する。（堀尚人）